

## 下北沢まちづくりビジョン

2020年東京五輪の馬術競技が馬事公苑で開催されることが決まりました。これを機会に、国際交流や海外から世田谷区を訪れる皆さまへのおもてなしを通して、まちなか観光の取り組みをレベルアップしたいと思います。

すでに下北沢を訪れる海外からの観光客は、このところたいへん多くなっています。2013年にフランスのミシュラングリーンガイドにて下北沢が一つ星を獲得したのは記憶に新しいことですが、また新しくワインガイドであるアシェットガイドが出版している日本向けの旅行ガイド **Guides bleus Japon** が8年ぶりに更新されて下北沢が三ツ星で評価されました。

「商業的でないにもかかわらず、有名人も無名人も平等なシモキタ村の中で自然体のショービジネスが成り立っている」と評価され、お店もそれぞれが極めて個性的であるとしています。下北沢の素晴らしさは世界中が認めるところであり、すでに世田谷や東京といったくくりではなく、日本を代表する街に進化しているように思えます。一方で、まちなかのサイン等の多言語表記等がまだ遅れています。

現在、駅前広場や補助54号線のワークショップが進められていますが、三回のワークショップで論議されている補助54号線の未来は、現在持っている下北沢の魅力をそこなわず、むしろ発展させるような「人間中心」「歩いて楽しいまちづくり」にむけた議論があり、私もそうしたまちづくりをしていきたいと思っています。

すでに地元のみなさんが中心になって新たな動きがあります。区画街路10号線を予定している道路予定地は、駅前のしもきた商店街振興組合と北沢2丁目協和会のご努力下、普段は憩いの公園になっており、週末は下北沢大学が開催されています。また、あずま通り商店街主催で盆踊りやシモキタ将棋名人戦など、下北沢の叡智が集まって極めて文化的に、下北沢に住む人たちのみならず下北沢を訪れる人たちを楽しませてくれています。行政は、住民を信頼し、場所や機会を提供して街づくりを支援するスタイルです。

過日、補助 54 号線の第 1 期工事の期間が延長されたところですが、今後は、上記の認識をふまえて、より丁寧に駅周辺の「街づくり」に集中したいと考えています。そのための一歩として、第 2 期および第 3 期工事について、優先整備路線としていることの見直しを開始いたします。

小田急線上部の跡地の活用についても、既に発表させて頂いた区の案を下北沢の皆さんと一緒に考え、さらに素晴らしいものに仕上げていきます。すでに線路跡地の西側では、環状 7 号線に歩行者専用の橋（代田富士見橋）がかかり、これが跡地をつらぬく散歩道に伸びていきます。「ひとつながりの新たな東京の名所」をめざして、魅力をふくらませていきたいと思えます。

2015年4月22日

保坂のぶと